

きょうの 挑戦者 たち

Vol.36

さわ だ まさ あき
澤田政明さん

1966年、京都生まれ。高校中退後、オートバイ・レーサーに。以降、中国でアパレル、飲食事業を展開したが、体調を壊して帰国。東日本大震災を機に人助けとなる事業をしたと、食品・物流に詳しい経歴を活かしてフードバンク設立を目指す。2015年「セカンドハーベスト京都」を設立。「困っている人に手を差し伸べたい」と、「フードバンク」「食のセーフティネット」「子ども支援プロジェクト」「食品ロス削減啓発事業」「フードパントリー（食品庫）」の5つの活動を、登録スタッフとともに実施。

家庭で
余った食品を集める
「フードドライブ」を
京都市協ほかで実施中。
ぜひ寄贈をお願いします！

未利用の食品を、支援が必要な人に届けたい！
命をつなぐ「フードバンク」を京都に定着させる挑戦



写真上／食品を無償で配布する「フードパントリー」では、当初コロナ禍でバイトを失った学生が受け取り者の8割を占めた。今は府内で5カ所の拠点を設け、毎月開催している。「利用者の栄養を考慮し、いずれは野菜など生鮮品の分配も増やしていきたい」と澤田さん。写真下／環境問題や食品ロス削減の実態を知ってもらう啓蒙活動も大切だ。澤田さんは小中学校での出前授業を積極的に行っている。

家庭で食べられるのに捨てられる食品や、小売店で販売期限切れにより廃棄される「食品ロス」は年間522万トンにも上る。捨てられる前に寄贈してもらい、必要とする団体などに届ける事業が「フードバンク」だ。これを京都で展開するのが「認定NPO法人セカンドハーベスト京都」の澤田政明さん。今、特に重点を置くのは、京都初の試みである「子ども支援プロジェクト」だ。

「かつて子ども食堂を運営し、食に困って来る子はほとんどいないと気づいた」と澤田さん。メディアのミスリードなどもある「子ども食堂」貧しい子どもだけが行くところ」と誤解する人もいると知った。また「夏休み明けに痩せて登校する子どもたちがいる」という話も教育関係者から聞いた。そこで支援が必要な家庭に食品を届けるため、京都市・八幡市の教育委員会の協力を得て、食品寄贈・資金寄付を募り宅配便で届けている。当初159世帯で始まった支援は、宇治市も加わり本年は760世帯となった。

※「第2次京都府子どもの貧困対策推進計画」（令和2年）より

私も挑戦者です

三洋化成は毎年セカンドハーベスト京都に食品を寄贈しています。挑戦を重ねる澤田政明さんと同様に、三洋化成も化学のちからで化学の枠を超えてイノベーションを起こし、持続可能な社会づくりに挑戦しています。

三洋化成工業株式会社

◎京都市東山区一橋野本町11-1
もよりバス停は「泉涌寺道」

三洋化成 Twitter
@sanyochemical

